

アルカリ骨材反応抑制工法
A S R リチウム工法

技 術 資 料

改 訂 版

2012 年 4 月 1 日 改訂

平成 2 4 年 4 月

A S R リチウム工法協会

2. 2 適用構造物

本工法は非常に簡単な原理を用いているため、基本的にはあらゆる RC 構造物（橋梁上部工、下部工、擁壁、ボックスカルバート、ダム、水門など）に適用することが可能と考えられる。最大躯体厚については、圧入孔の削孔時における直線性確保の観点から、片面から圧入孔を削孔する場合には 3,000mm 程度、両面から圧入孔を削孔できる場合には 6,000mm 程度が上限となる。

本工法は液体状の抑制剤をコンクリート中に内部圧入する施工法をとることから、施工面が水中にある場合には施工できない。また、上水道施設を対象とする場合にはその適用性に十分な検討が必要となる。